

# 『宝塚の植物』（補遺）（1）

東 正 雄\*

宝塚市文化財調査報告第20集『宝塚の植物』I 草花（合弁花類）昭和61年3月；同第22集II 草花（離弁花類）昭和62年3月；同第23集III 草花（単子葉類）昭和62年3月；同第24集IV 木本（樹木類）昭和63年1月とそれぞれ宝塚市教育委員会から発行された。その後、筆者は宝塚市域の継続調査の結果、追加すべきものが若干判明したので、ここに報告する。なお、調査は将来へ継続して、より完全なものにする意図である。

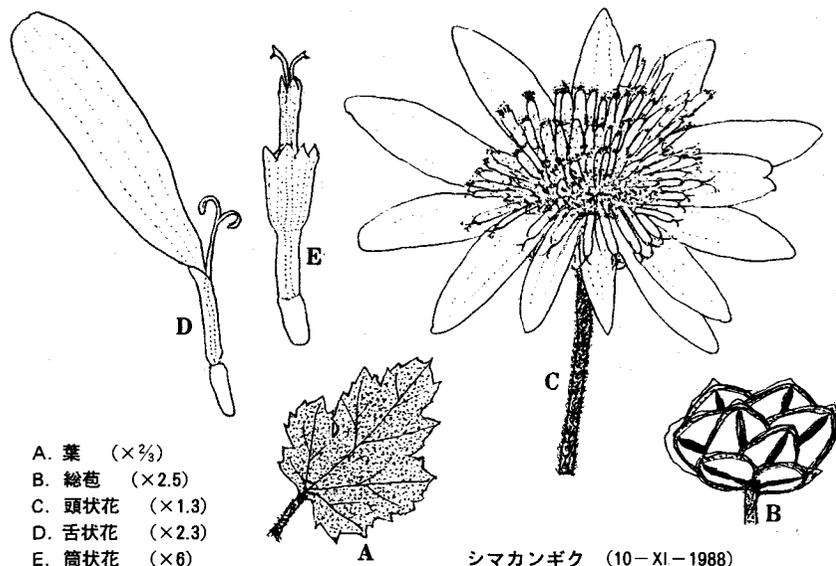
I\*\*, 39頁49の次へ追加する。

キク属 *Chrysanthemum* L.

シマカンギク（アブラギク、ハマカンギク） *Chrysanthemum indicum* Linnaeus

地下茎は横にのび、茎の下部はやたおれる。高さ50～80cm内外、葉身の長さ4～5cm内外、はば3～4cm内外、有柄、基部は心形～截形、仮托葉があり、深く羽中裂、頂片は鈍頭、側片は2対、牙齒がある。上面には細毛があり、下面には軟毛が密生。総苞は小さく卵形、長さ5～6mm。頭状花は枝頂にまばらで散房状となる。舌状花は黄色、長さ9～12mm内外、幅2～3mm。瘦果の長さ1.8mm内外、舌状花の白色を var. *albescens* Makino シロバナシマカンギクという。花期は10～12月である。

分布：本州（近畿以西）・四国・九州・韓国・台湾・中国。宝塚では而楽山荘付近にわずかに残存している。

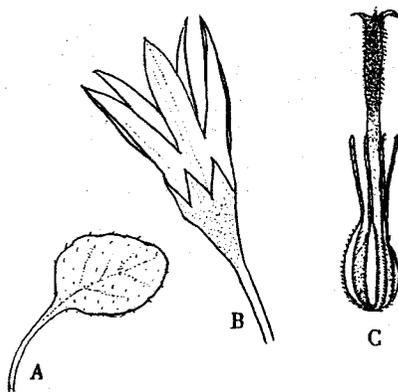


A. 葉 (× $\frac{3}{5}$ )  
B. 総苞 (×2.5)  
C. 頭状花 (×1.3)  
D. 舌状花 (×2.3)  
E. 筒状花 (×6)

シマカンギク (10-XI-1988)

I, 69頁108の次へ追加する。

タニギキョウ属 *Peracarpa* Hooker f. et Thomson  
タニギキョウ *Peracarpa carnososa* Hooker f. et Thomson var. *circaeoides* (Fr.Schmidt) Makino



タニギキョウ

A. 葉 (×1.5) B. 花 (×3) C. 雄ずい・雌ずい (×8)

小さい多年草。地上茎は10cm内外、葉は7～15mm内外、上面には短毛が散在。花期は5～7月。茎の上部から細長い柄がでて単生。かく5片、花冠は白色5裂、長さ5～6mm内外、雄ずい5、その基部はやや幅広く両縁に微突起が密生する。柱頭は3裂している。

分布：北海道・本州・四国・九州・斎州島・南千島・サハリン・カムチャッカ。宝塚では武田尾溪谷にわずかに残存している。

\*宝塚市宝梅1-13-7

\*\*『宝塚の植物』I 草花39頁49の次へ追加するという意味

I, 74頁119の次へ追加する。

オオフトバムグラ (タチフトバムグラ) *Diodia teres* Walter



オオフトバムグラ 武庫川原 (宝塚市役所付近)  
(12-X-1986)

北米原産。1937年, 大阪府浜寺や東京都村山産の報告がある。本州中央以南にひろがる。砂地性で海岸や河川敷に見られる。

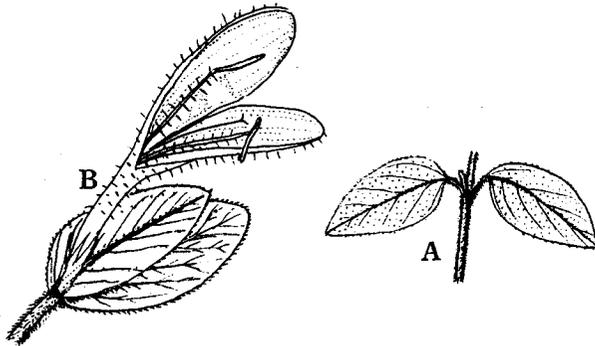
一年草で高さ10~25cm内外, 対生葉で葉の縁には, 硬い刺状の微毛が密生。托葉は左右が合着, その上へりに数本の刺がある。花冠の先は4裂, 淡紅色, 雄ずい4, 雌ずい1, 子房下位, 花は夏, 果実は2室, 上部に4個のがく片がつく。2個の分果 (小堅果) となる。宝塚では, 武庫川の川原に多く生える。

I, 81頁132の次へ追加する。

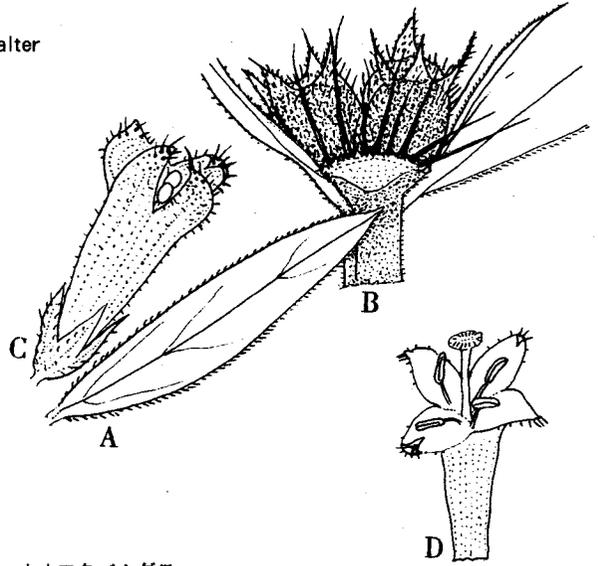
ハグロソウ属 *Dicliptera* Juss.

ハグロソウ *Dicliptera japonica* (Thunb.) Makino  
var. *subrotundata* Matsuda

低い山地内に生える多年草。茎は方形, 高さ20~30cm



ハグロソウ  
A. 葉 (×1/2) B. 花 (×1.5) (22-VIII-1986)



オオフトバムグラ

A. 葉 (×4) B. 茎の節部。2個の果実と合着した托葉の上へりの刺を示す。 (×3) C. 花。花冠裂片の裏に白色の太い毛が生える。 (×6) D. 花冠の先を広げたところ。雌ずいの先や葯を示す。 (×6)

内外, 葉は卵形~披針形, 縁毛は微白色, 葉の両面に白毛散生する。裏面は脈にそって粗毛が多い。花期は8~10月頃, 花は大きな2個の苞に包まれる。がくは3mm内外で, 裂片5, 細く尖る。花冠は2唇形, 淡桃白色, 筒部は細長い。雌ずい2, 花糸には毛が多く生える。

分布: 本州 (関東以西)・四国・九州・韓国・中国。宝塚では北部 (武田尾溪谷など) に生える。

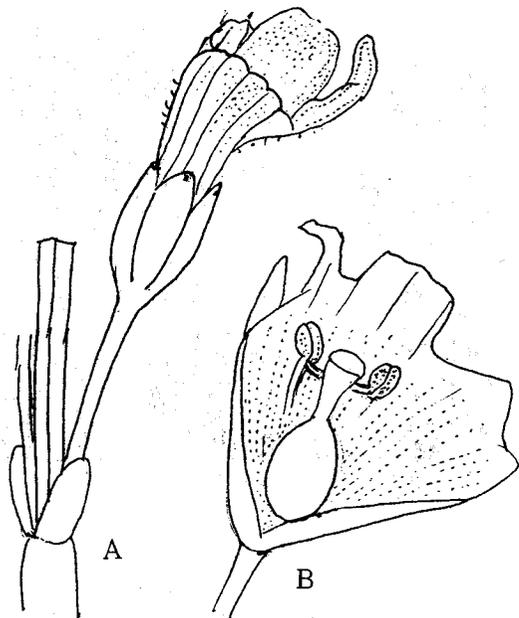
I, 93頁157の次へ追加する。

アブノメ属 *Dopatrium* Hamilt.

アブノメ *Dopatrium junceum* (Roxb.) Hamilt.

水田や湿地に生える一年草。茎は軟く, 基部で分枝, 直立, 高さ10~20mm内外。花は8~10月頃上部の葉腋につく。花柄は1~3mm, 花後のびて7mm内外となる。がく5深裂, 花冠は紫色, 長さ4~5mm, 雄ずい2, 下側の2本は仮雄ずいと

なる。子房は1室, さく果は球形, 3mm内外。  
分布: 本州・四国・九州・沖縄・台湾・中国・インド。宝塚では北部の西谷の水田に生える。



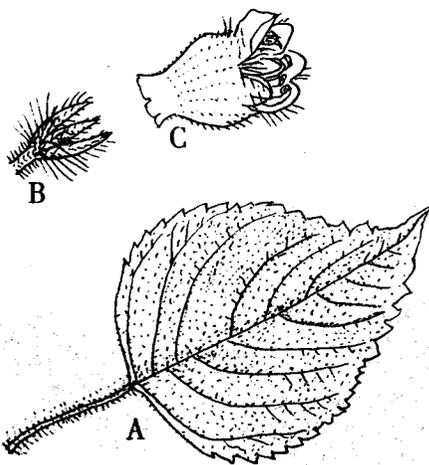
1, 103頁176の前に追加する。

シソ属 *Perilla* L.

レモンエゴマ *Perilla frutescens* (L.) Britt. var. *citriodora* (Makino) Ohwi

山地に生える一年草。全部にレモンの香りがある。茎の長さ20~50cm内外、やや密に短軟毛がある。花期は8~10月、花穂がでて多くの花がつく。がくは2唇形で長軟毛がある。花冠は白、2唇形、雄ずい4、分果は扁球形、径1mm内外で網紋が現れる。

分布：本州・四国・九州。宝塚では北部の香合新田~中村(三田市)間の山地に1977年頃わずかに残存していたが、現在は不明(絶滅?)である。



アブノメ

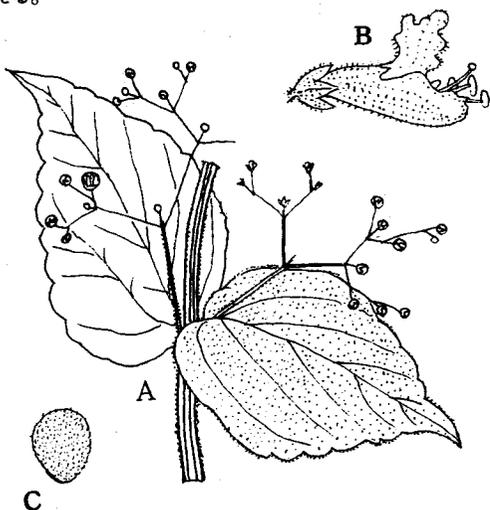
A.花 側面(×10) B.花冠の展開(×15) (20-IX-1987)

1, 99頁169の次へ追加する。

クロバナヒキオコシ *Isodon trichocarpus* (Maxim.) Kudo = [*Rabdosia trichocarpa* Hara]

多年草、茎は方形、高さ1m内外になる。葉の裏面に網状に脈が浮きでて腺点がある。花は暗紫色、長さ5~6mm、果実に毛がある。花期は8~9月、がくは5裂して細毛がある。

分布：北海道・本州。宝塚では北部の山地に若干生える。



クロバナヒキオコシ

A. 葉と花序(×3/5) B. 花(×4) C. 分果(×6)

レモンエゴマ

A. 葉(×3/5) B. がく(×2) C. 花冠と雄ずい・雌ずい(×4)

1, 119 頁208の次へ追加する。

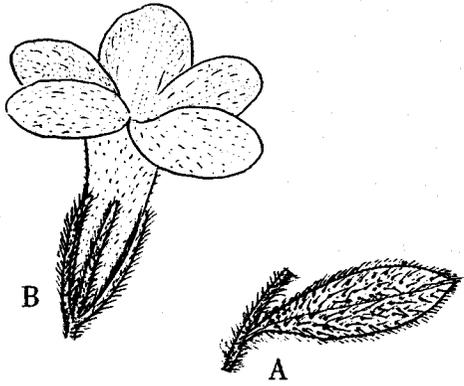
イヌムラサキ属 *Buglossoides* Moench

ホタルカズラ *Buglossoides zollingeri* (DC)

Johnston

多年草、茎は細く直立で、高さ25cm~30cm。花は大きく、径15mm内外、碧紫色又は白色、4~5月に開花。葉は狭長だ円形、長さ4~5cm内外、上面には基部が盤状に硬い剛毛が多い。花冠5裂、各裂片中央に縦に白色の隆起がある。がく5深裂、裂片は線状披針形、長さ6~7mm、雄ずい5、花筒につく。分果は平滑、長さ3mm内外。

分布：北海道・本州・四国・九州・喜界島・韓国・台湾・中国。宝塚では北部の山地にまれに見られる。



ホタルカズラ  
A. 葉 (× $\frac{1}{2}$ ) B. 花 (×2.5)



ホタルカズラ 川下川ダム付近 (18-V-1986)

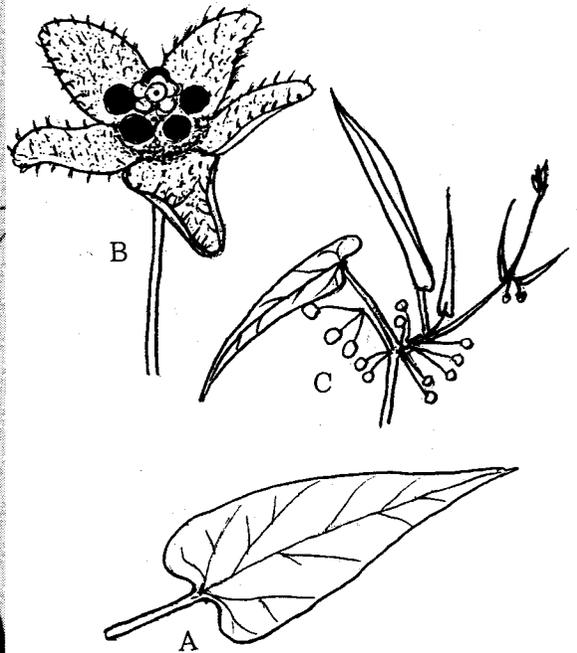
1, 126頁221の次へ追加する。  
オオカモメヅル属 *Tylophora* R.Br.  
オオカモメヅル *Tylophora aristolochioides*  
Miquel  
多年生つる草, 葉は三角状狭卵形, 無毛, 基部は心形,

やや耳状にはりだす。花期は7~8月, 花序は小さく葉腋につく。花は淡暗紫色で径5mm内外, 花冠裂片の内面にはちぢれ毛がある。副花冠は星状に開出して, 裂片は柱より短い。

分布: 北海道・本州・四国・九州。宝塚では北部山地にわずかに残存している。



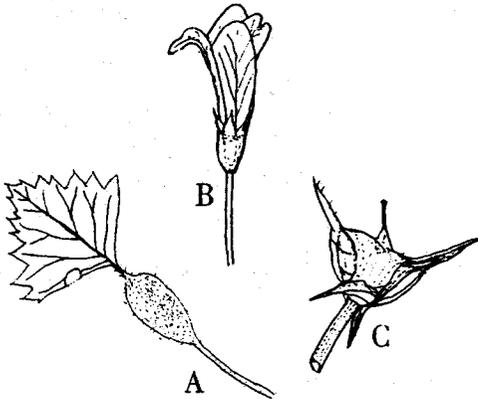
オオカモメヅル (× $\frac{1}{2}$ ) (28-VI-1987)



オオカモメヅル (28-VI-1987)  
A. 葉 (×0.8) B. 花 (×6)  
C. 先端の花序の一部 (×0.8)

II, 28頁271

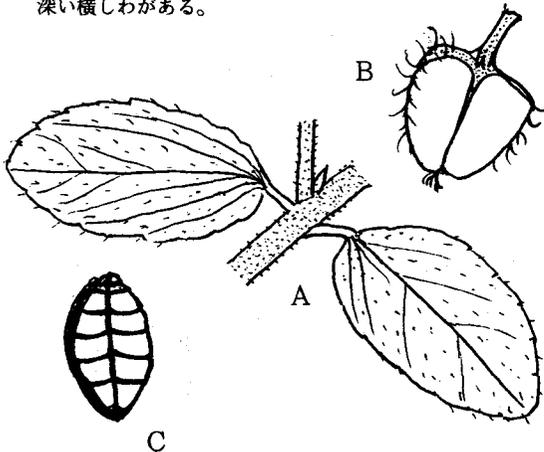
ヒメビシ *Trapa incisa* Siebold et Zuccarini  
原図を追加する。



ヒメビシ  
A. 葉 (× $\frac{2}{3}$ ) B. 花 (×1.7) C. 果実 (×1.3)  
西谷、大原野の古い池 (2-VIII-1987)

II, 45頁303の次へ追加する。

ハイニシキソウ *Euphorbia chamaesyce* Linnaeus  
熱帯アメリカ原産の一年草。1954年、古沢の報告によれば、台湾、小笠原に入り、長田は福岡、山口、兵庫、岡山県の分布を追加した。宝塚市川下川ダム近くの標本を1976年10月にみた。茎は束生、枝多く密生して、ちぢれた白毛が多い。葉の長さ4~8mm、はば2~5mm、上面は青緑色、下面は白緑色。花期は夏、花序(杯状)の腺体は4、付属片は白色で小さい。果実(さく果)の側面は三角状扁卵形、上面からみると正三角形、花柱3、それぞれ基部まで2裂する。種子には4稜あり、面には深い横しわがある。



ハイニシキソウ  
A. 葉 (×4) B. 果実 (×7.5) C. 種子 (×15)

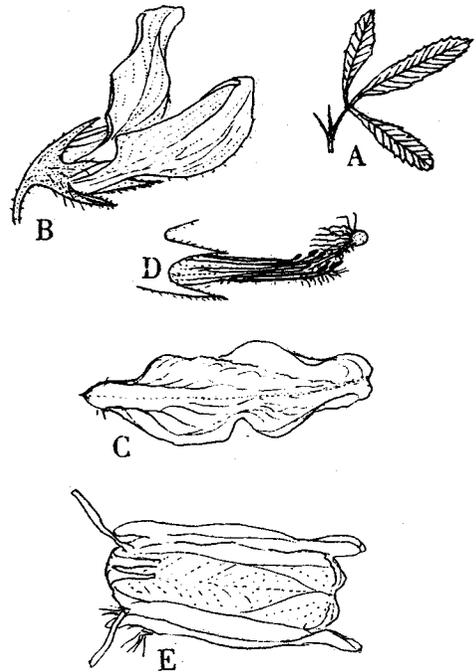
II, 68頁345の次へ追加する。

シナガワハギ属 *Melilotus* Mill.

シナガワハギ *Melilotus suaveolens* Ledeb.

東アジア原産の二年草。茎は直立、高さ50~80cm内外、無毛、葉は3小葉よりなる。托葉は細く1脈がある。花序の長さ3~5cm、花柄は長さ0.5mm(果時にはやや長くなる)。がくに微毛があり5裂、花冠は黄色、長さ5mm内外、花期は夏、さく果は広楕円形、1~2の種子があり無毛。

分布：本州・四国・九州・沖縄・韓国・中国・シベリア・インドシナ。宝塚では1987年西谷西部でわずかに自生がみられた。



シナガワハギ 西谷西部の採品 (20-IX-1987)  
A. 葉 (×1.3) B. 花 (×4) C. 旗弁 (×7)  
D. 雄ずいと雌ずい (×7) E. 翼弁 (×7)

II, 97頁402の前へ追加する。

ケシ属 *Papaver* Linn.

ヒナゲシ *Papaver rhoeas* Linn.

欧州原産、江戸時代から栽培の記録があり、ときには武庫川川原などに野生化している。高さ30~60cm内外の二年草。直立、開出粗毛が多い。葉は羽裂して牙齒がある。花梗には粗毛が密生、がく片は長さ2cm内外、花弁4、真紅色が多いが白色あるいは斑紋状など変化しているものもある。雄ずい多数、雌ずい1、果実(さく果)の大きさは1.5cm内外、無毛、平滑である。



ヒナゲシ 南口付近 (29-V-1988)



ナガミヒナゲシ 南口付近 (29-V-1988)

ナガミヒナゲシ *Papaver dubium* Linnaeus

地中海沿岸～中欧原産の一年草。1961年東京世田ヶ谷に帰化したのに檜山庫三が和名をつけた。宝塚南口付近でも1980年頃から見られる。茎の高さ30～50cm内外。下方は立毛、上方には、ねた毛がある。葉は1～2回羽状深裂する。根生葉は20cm内外にのびる。花は頂生で単生、がく片2個長毛が密生、花弁4、朱赤色、多くは基部に黒い斑がある。雄ずい多く、葯、花糸は淡紫色、雌ずい1。

花期は4～5月、総状花序に数個つく。紅紫色、さく果は線状、長さ2cm内外やや数珠状となる。種子は扁円形、漆黒色、その径2mm内外。

分布：本州（関東以西）・四国・九州・沖縄・台湾・中国。宝塚では中山寺足洗川西側にわずかに残存する。

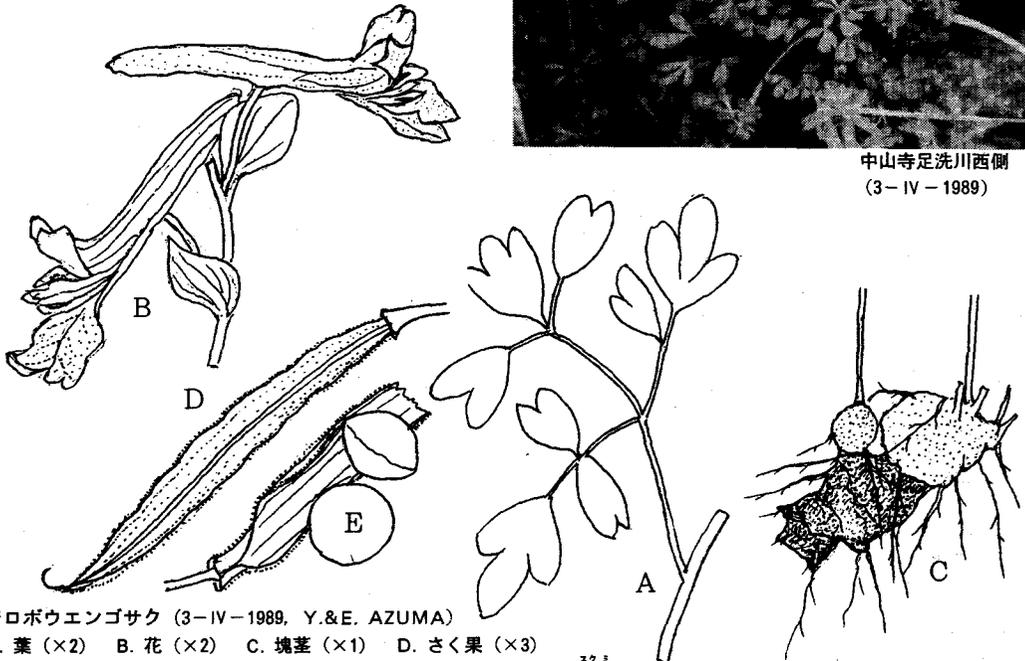
II, 98頁404の次へ追加する。

ジロボウエンゴサク *Corydalis decumbens* Persoon

地下に塊茎がある細長く弱い多年草。葉は2回3出羽状、最下のものの長さ25mm内外。花茎の長さ15cm内外、



中山寺足洗川西側 (3-IV-1989)



ジロボウエンゴサク (3-IV-1989, Y.&E. AZUMA)

A. 葉 (×2) B. 花 (×2) C. 塊茎 (×1) D. さく果 (×3)  
E. 種子 (さく果内, ×6) C.D.E. → (29-IV-1989) (南紀古坐川町直美産)

II, 144頁493の次へ追加する。

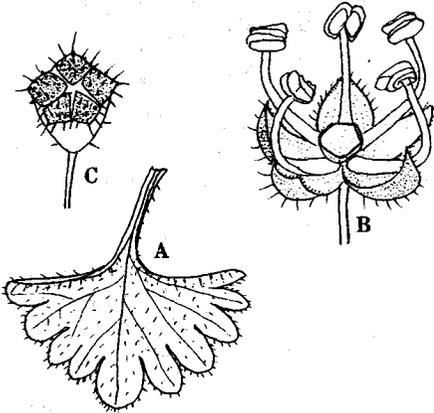
カテンソウ属 *Nanocnide* Blume

カテンソウ (ヒシバカキドウシ) *Nanocnide japonica* Blume

小さな多年草。茎の高さ10~25mm内外, 互生葉, 扇形~広卵形, 鈍い鋸齒縁, 基部は切形, 両面にはまばらに毛がはえる。葉の長さ1~3cm内外, 葉柄は葉身と同長か, 少し長い。花期は4~5月, 雄花序は長柄がある。雄花は5花被片, 5雄ずい。雌花序は短柄で雌花は4花被片。頂に長毛がある。果実は花被片に包まれ, 長さ1mm内外, 細点がある。

分布: 本州・四国・九州・中国。宝塚では武田尾溪谷~而楽山荘近くの陰地の杉林に生える。

南アフリカ原産の多年草。1774年日本へ渡来する。高さ30~40cm内外, 葉は狭長く, 鋭尖頭, 中脈は隆起して剣背状となる。穂状花序に淡黄色の2~7花がつく。花は漏斗状鐘形, 径3~4cm内外, 花期は5月。雄ずい3, 1雌ずいを囲む。葯は紫黒色, 花柱の先端は3岐している。

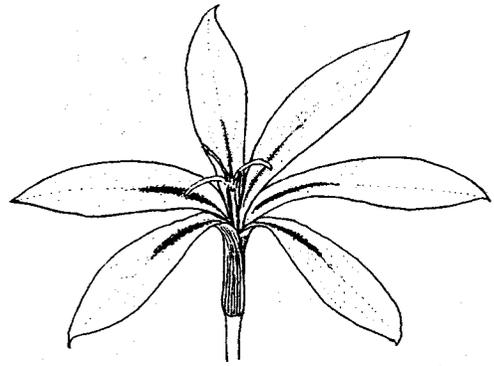


カテンソウ (30-IV-1988)

A. 葉 (×2.5) B. 雄花 (×8) C. 果実 (×4)



而楽山荘付近 (27-IV-1988)



スイセンアヤメ

花 (×0.8) 西谷より移植したもの (6-V-1988)

III, 67頁617の次へ追加する。

クログワイ *Eleocharis kuroguwai* Ohwi



(25-VIII-1987) (安倉ノ池)

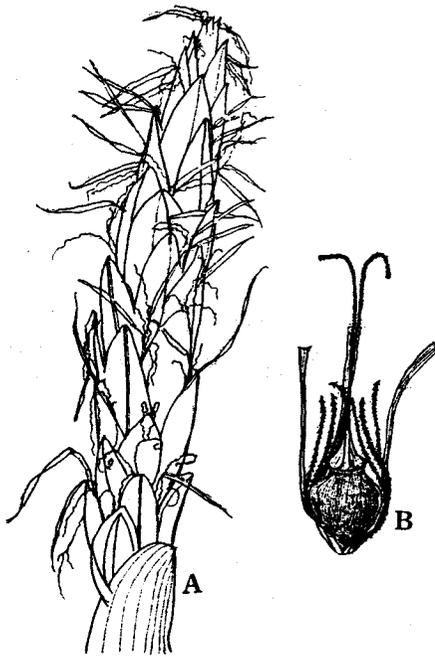
III, 25頁537の次へ追加する。

ヒメトウショウブ属 *Tritonia* Ker - Gawl.

スイセンアヤメ *Tritonia lineata* Ker - Gawl.

(= *Montbretia lineata* Baker)

(= *Sparaxis lineata* Pax.)



クログワイ

A. 小穂 (×2) B. 果実 (×5) 花糸3本残る

池沼の水中に群生する多年草。地下茎は長く泥中のび、先に径5~8mm内外の小塊茎をつくる。稈はそう生、円筒形、中空、多くの横隔膜で区切られる。高さ50~100cm内外。径5mm内外、暗緑色、稈基は濃い赤褐色、花期は8~10月、穂は円柱形、先はやや円とがり長さ4cm内外、径5mm内外。鱗片は狭い楕円形、先端は円とがる。果実は両凸レンズ形、柱基は扁圧された三角形、基部は盤となる。その幅は果体の1/2内外、花柱は果実の4~5倍の長さ、柱頭は2個、刺針状花被片は5~7本である。

分布：本州（関東、北陸以西）（秋田？）・四国・九州・南韓国。宝塚では安倉の池に生える。

IV, 92頁73の次へ追加する。

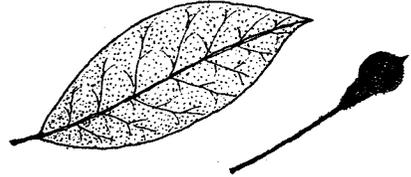
アリマグミ *Elaeagnus murakamiana* Makino

落葉低木、葉は長楕円形~倒卵状楕円形、急鋭尖頭、長さ5~7cm内外、幅1~3cm内外、上面星状毛があり、下面は銀色の鱗片でおおわれ、星状毛が散生している。花は4~5月、葉腋に1~2個つく、がく筒の長さ6~7mm、裂片は広卵形、鋭頭、長さ3~5mm。果実は6~7月、上半部は扁球形、径4.5~5mm。下半部はくさび状、長さ3mm内外、果柄は2.5~3cm。

分布：本州（静岡県~兵庫県、太平洋側）、四国（東北部。宝塚では長尾山系（山本）に稀産する。



アリマグミ 宝塚市山本 牧野標本館で撮影

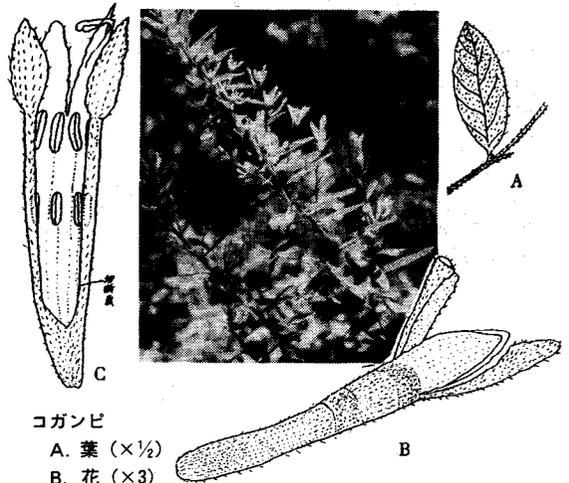


アリマグミ

葉 (×1/2) 果実 (×1/2) (標本)

IV, 95頁77の次へ追加する。

コガンビ *Wikstroemia ganpi* Maximowicz



コガンビ

A. 葉 (×1/2)  
B. 花 (×3)

外側よりみる C. 花の内面 花 (3-VII-1989)